



本場黄八丈

[ほんばきはちじょう]

Hachijojima Silk Fabric

●主な製造地

八丈島

●指定年月日

昭和57年12月24日

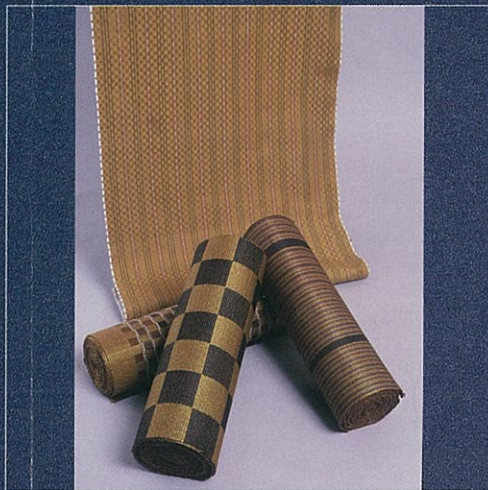
昭和52年10月14日(国)

●伝統的な技術・技法

1. 先染めの平織り又は綾織りとする。
2. よこ糸の打ち込みには、手投げ杵を用いる。
3. 染色は、手作業による浸染とする。この場合において、染料は、コブナグサ、タブノキ又はシイを原料とする植物性染料とし、媒染剤は木炭又は泥土とする。

●伝統的に使用されてきた原材料

生糸、玉糸、真綿の紬糸又はこれらと同等の材質を有する絹糸



●沿革と特徴

八丈絹は、江戸時代になり八丈島が幕府の直轄地となっても、農産物の乏しいこの島の年貢として取り立てられるようになります。「永鑑帳」とは、八丈島から納める年貢の見本帳です。「八丈実記」によると正徳3年(1713年)に幕府御納戸から八丈島へ遣わされた黄八丈の反物五十種類と帯地六種の柄模様布地を貼り、綴じられているものです。年貢は六百三十反余りでした。

浄瑠璃の衣装として黄八丈が取り上げられもてはやされたこともありました。

黄八丈の特徴は、八丈固有の風土の中から生まれた「染め」と「織り」にあるといわれています。黄・樺・黒の三色が主体で、すべて八丈島で自生する草木を原料とする天然染料です。黄色は八丈刈安(学名コブナ草)、樺色は、マダミ(学名タブの木)の皮黒色は椎の木の皮と泥染めによる島独自の染色法によってつくられます。三色を組合わせた堅縞、格子縞などの織物は手織りで作られます。

連絡先

- 産地組合名 / 黄八丈織物協同組合
- 所在地 / 〒100-1621 八丈島八丈町榎立346-1
- TEL / 04996-7-0516

